



令和 6 年 7 月 3 1 日

自民党市政会
会長 大 前 寛 乗 殿

自民党市政会
幹事長 大 藤 匡 文

調査研究、要請・陳情実施報告書

下記のとおり実施したので報告します。

1. 期 間 令和 6 年 7 月 1 7 日(水曜日) から
令和 6 年 7 月 1 9 日(金曜日) まで
2. 視 察 先 (1) 調査研究
福島県郡山市、山形県山形市
郡山市開成山公園 Park-PFI 事業について
公民連携を活用した児童遊戯施設について
(2) 要請・陳情
財務省(財務大臣政務官 瀬戸 隆一)
3. 参 加 議 員 名 大前 寛乗、楠井 常夫、大藤 匡文、前川 昌也
斉藤 義明、茨 智仁、山条 真嗣、東原 章
丸岡 豊和、山下 真司、植原 泰、角野 正明

4. 調査研究、要請、陳情の概要

- (1) 郡山市開成山公園 Park-PFI 事業について

福島県郡山市朝日一丁目 23-7

郡山市役所・開成山公園

研修目的

坂出市として検討を進めている緩衝緑地公園整備における指定管者制度等について、先進的に行っている郡山市(人口 319,645 人)は、地理的条件に恵まれ、全国的にも優れた交通網は、首都圏と結ぶ「東北新幹線」、東北自動車道と磐越自動車道が交差する「郡山ジャンクション」、札幌や大阪への移動をスムーズにする「福島空港」など、鉄道、道路、空路など重要な交通網が広く整備された都市として、故郷に対する思いを大切にした事業「公募設置管理制度 Park-PFI と指定管理者制度を行っている郡山市開成山公園 Park-PFI 事業について、市政会として取り組むための調査研修として視察を行った。

所 感

(ア) 郡山市の中心部に位置し、日本の歴史公園 100 選にも選ばれている開成山公園は、「市民のシビックプライドの象徴的存在」と位置付けられている。開成山公園等の Park-PFI 事業では同公園の西側エリアと、隣接する水・緑公園、開拓公園、開成二丁目公園の 3 つの街区公園を対象に、Park-PFI と指定管理者制度を組み合わせ、老朽化した公園施設を改修するとともに新たな収益施設を導入し、公園の利便性や魅力、防災機能の向上を図るというもの。

郡山市初の Park-PFI の活用事例となる。なお、運動施設（文化スポーツ部スポーツ振興課）がある公園東側は対象外である。再整備の対象となっている公園西側には五十鈴湖を中心として野外音楽堂やバラ園、広場などがある。今回の Park-PFI では、既存の自由広場を芝生広場に再整備するほか、野外音楽堂とバラ園の改修、駐車場の拡充、水上デッキや五十鈴湖を周回するランニングコースなどがあり、市民の憩いの場となっている。カフェや多世代が利用できる大屋根空間、地域の歴史を踏まえた花壇の整備やポケモンと連携協定をして、遊具など寄付する募集で誘致に成功していた。香川県綾川町にあるヤドン公園も素晴らしい公園だが駐車場の課題がある。この公園も当初は渋滞が起き、駐車場問題に苦慮していたが市民からの意見を聞き、駐車場の拡大、有料化等々要求水準に関する意見・要望があり着実に進めていった。

本市も郡山市とは規模はちがえども、市民の意見などを幅広く聞き、これから進めていく緩衝緑地再整備に取り組まなければと感じた。

(イ) Park-PFI 事業とは都市公園法に基づいて実施される PFI 事業というのは初めて知った。

※50 年が経過し、施設全体が劣化し、駐車場も 82 台と不足している状況、自由広場 (7,000 m²) は砂利で雨・風の時には使い勝手が悪いと課題が山積の中、Park-PFI を活用できたのは幸いであった。

※平成 30 年にエリアプラットフォームを立ち上げて、令和 6 年 4 月に供用開始というのは時間がかかりすぎのように思う。

※整備費用については、民間事業者負担、国庫補助（震災復旧）等により市の費用の削減をしたのは素晴らしい。

※公園内での防災機能強化しているのも評価できる。かまどベンチ、マンホールトイレ等

※公園の目玉行事の一つは日本で最古の桜の木を有している「花見」であるが、駐車場は全く足りていない。周辺道路に交通渋滞を起こしているが早急に改善が必要。

※フォローアップ委員会が機能し市民・郡山市が誇れる公園になってほしい。

(ウ) 今回は、郡山市の公園を公募設置管理制度 (Park-PFI) と指定管理者制度を導入して再整備した経緯並びに、公募設置管理者制度を進めるに当たっての問題点や対応した方法、また、指定管理者制度の契約状況とその成果などを視察した。

まず公園の概要であります、30ha と非常に大きな規模の公園である事に驚いた。

この規模の施設の視察をして本市の今後の参考になるのか当てはまる具体例が見出せるのかという疑問が自分の中で湧き上がったが、説明を受けて行くうちに規模は、違えども参考になる事が多いと感じた。まず検討時の状況の中では、徹底的にリサーチを行い、現状分析をして利用者数的確な予想を立てる事、今の施設の課

題を詳細に分析する事、それらを元に検討を開始すること、検討開始後は、市民ニーズを徹底的に把握して行くこと、それらを確定した後はあくまで民間主導で推し進める配慮が必要であり、途中で行政が制約をかけないあくまで民間企業等の採算性や合理性を尊重すること、資金調達もできる限り民間主導でやっていくこと、整備後も成果の分析や実数値の把握には、十分努め今後の課題解決や市民の理解が得られる方向性を見出していくことが重要である。

また、一番感心したことは、作ったら終わりではなく、きちんとフォローアップ委員会を設置して今後の課題解決や市民ニーズの掘り起こしに努めているところであった。本市も今後PFIで様々な事業を進めて行く中で、最大限民間主導で推し進めることが肝要であると感じた。

故郷に対する思いを大切にしたい事業というコンセプトで進めたと言うだけあって、非常に市民目線を感じられる公園であった。

- (エ) 郡山市では、昭和47年に都市公園として供用を開始した開成山公園が令和4年度に50周年を迎えるにあたり、公園整備について検討を進めることで公募設置管理制度(Park-PFI)と指定管理制度を採用、令和5年度より生まれ変わり開園された。

説明後に散策した開成山公園には、日本最古の染井吉野といわれている歴史ある古木を中心に現在約1300本の桜が植林されている。

公園を訪れる誰もが一緒に楽しく遊べる空間として、キャラクターの遊具が設けられた広場、バラ園など四季折々の花が咲くスポットが設けられていた。

特に、砂利広場から芝生広場に整備された広場周辺には、カフェ等の軽食等が楽しめる空間が整備されていた。

これまで各自治体が整備・運営してきた公園から想像できない空間などが整備されていたことには、とても驚いた。

以上のことから、今回の行政視察先の開成山公園整備は、官民連携を導入した成果だと考えられる。

坂出市が進めている緩衝緑地公園整備事業も郡山市と同様に「誰もが一緒に楽しく遊べる空間」として公園整備を進められるように、積極的に尽力したいと考えている。

今後の課題としてより集客力のある事業所や企業を誘致できるかが鍵であると思う。

全体最適という言葉が頭の中で巡った視察であった。

(2) 公民連携を活用した児童遊戯施設について

シェルターインクルーシブプレイス コパル (山形市南部児童遊戯施設)

研修目的

坂出市が進めている駅前複合施設や緩衝緑地公園の整備計画における公民連携を活用した児童遊戯施設(コンセプト インクルーシブ)について、市政会として取り組むための調査研修として視察を行った。

所 感

- (ア) 山形県山形市にある『シェルターインクルーシブプレイス コパル』において、自民党市政会における行政視察を行った。施設を視察するまでは「シェルター」という単語から、なかなか児童遊戯施設とは想像ができなかったが、「シェルター」が会社名だと分かり、納得できた。この施設ができるまでの経緯は省略するが、人口

減少が課題である自治体にとっては、子育て支援に力を入れようとの思いは同じである。坂出市においても、同じ悩みを抱える中、これから進める街づくりでは「子育て世代に選ばれる街」といったキーワードが非常に重要であり、本市が目指す街づくりの要でもある。駅前再編整備における、複合施設の建設には、PFI 手法を取り入れるとすることで、この施設の視察に至った経緯は、構想の段階から民間企業にも入ってもらい、行政と利用者也交えた「創造会議」を何回も開催しているのはとても良いと思った。出来上がった建物も非常に素晴らしく、建築物としても、数々の賞を受賞していて、高い評価に値するものである。周りの景観に溶け込むような建物は、今まさに事業に着手している駅前通りのランドスケープを意識した設計とリンクする部分がある。本市においても、これから着手していく事業において、是非とも利用する市民の声を参考に、民間のアイデアから生まれる新しい形の施設が望まれているので、コパルの真似をするのではなく、坂出市に合った街づくりを進めてほしいと思う。今回の視察では、改めて PFI 手法での事業着手が、これからの持続可能な街づくりにおいては大切であろうと再確認できた視察となった。

- (イ) コパルは障がいの有無や国籍、家庭環境の違いに関わらず、全ての子どもたちに開かれた遊び場として設計されている。施設のデザインは「インクルーシブ」「生きる力」「地域共生」の三つの柱に基づいており、特にインクルーシブデザインに力を入れている。障害者や高齢者など、これまでサービスや製品の対象者から排除されてきた人々をプロセスの初期から巻き込み共に活動していくデザイン手法である。例えばここコパルには障がいのある子どもたちのための遊具もいくつか設置されている。

坂出市もこれから駅前複合施設や緩衝緑地再整備計画にも PFI で進めるにあたってインクルーシブデザインを取り入れて頂きたいと思う。

- (ウ) 山形市では、子ども達がのびのびと遊べる施設が少なく、子育て中の保護者から屋内型の児童遊具施設に対する要望が多くあった。そこで、市内の北部に施設を整備し、平成26年12月にオープンしたところ、多くの来訪者があったため、市南部への設置も望まれていた。そして、「子育てしやすい環境の整備」の主要事業として整備したと詳しく説明があった。

整備の手法やコスパの内容や設計コンセプト インクルーシブの考え等の説明や館内見学などを通して、子ども達が自由に遊びを発見できるように、そして、誰にとっても心地よい居場所として、整備された施設だと実感でき、非常に参考になった。特に整備に当たっては、設計コンセプトが大変重要であると、再認識し、施設そのものをどのようなものにしていくのか。それがはっきりしないと全てが台無しになるのではと痛切に感じたところである。

本市においても、現在、駅前に複合施設や緩衝緑地帯の整備を計画しているが、計画に当たり、山形市のようなインクルーシブの考えを取り入れた施設を考えていく必要があると思う。公募業者とのやり取りの中で、是非、実現できるよう一考していただきたい。

(3) 要望活動

財務省 大臣政務官室 財務大臣政務官 瀬戸 隆一

坂出緩衝緑地並びに東大浜第1公園・東大浜第3公園の再整備に関する要望について

